



自立活動だより



自立活動部
R2年12月号
第5号

11月に行った、スヌーズレン勉強会への参加、ありがとうございました。そのときの内容と重複するのですが、今号は「スヌーズレン教育」について紹介します。そもそも、スヌーズレンを教育現場で活用し、教育的意義を実証することは、世界的にみてもまだまだ研究段階で明確な定義もありません。そのなかで、常葉大学教授 姉崎弘教授が先駆的に研究されています。今回は姉崎教授の論文から、「スヌーズレン教育」についてまとめました。

スヌーズレン教育

意義

- 1) 重度・重複障害のある子どもが無理なく取り組み、感覚面の初期教育に寄与すること。
 - ・知的能力（言語や運動等）を必要とせず、視覚や聴覚、嗅覚等の感覚器官を適度に刺激し、大脳辺縁系（本能や記憶を司るところ）が活発に活動する。
 - ・多重感覚刺激（例：視覚+聴覚）を通して心身の発達を促進する。
- 2) 子どもの「幸福感」が学習をさらに楽しくし興味・関心やコミュニケーション行動などを引き出すこと。
 - ・スヌーズレンを通して幸福感を味わい、学習活動を楽しめるものにする。
- 3) 周りの環境が子どもに働きかけ、子どもの主体的な活動を促進すること。
 - ・教師が直接子どもの身体に働きかけるのではなく、環境を調整する。
 - ・「環境」は①教師の存在と②教師の関わりも含まれている。
 - ・「環境」こそが子どもの発達を支援し、子どもを教育する。
- 4) 教師の子どもを見る目を養うのに効果的であること。
 - ・教師が共に楽しむことで共感関係の形成ができる。
 - ・繰り返し取り組むことで子どもの「好き・嫌い」に対する理解が深まり、ニーズに合った刺激の選択ができる。

大切なこと

- ☆子どもの興味・関心に基づいた「能動的で主体的な行動の発現を尊重して待つ姿勢」で関わる
- ☆小さな反応に気づき、子どもの思いに共感する声かけや関わりを行うこと
- ◎教師と子どもの普段からの信頼関係を基盤とすること

スヌーズレンと自立活動 例：スヌーズレン教育の指導目標と教育課程上の位置づけ

指導目標	教育課程上の位置づけ		
情緒の安定・リラックス	1 健康の保持	2 心理的な安定	
覚醒させる・注意集中力の向上	1 健康の保持	4 環境の把握	
運動・動作の向上	1 健康の保持	5 身体の動き	
対人関係・コミュニケーション能力の向上	3 人間関係の形成	6 コミュニケーション	
その場を楽しむ・快の情動の喚起	1 健康の保持	2 心理的な安定	4 環境の把握

- 参考 『重度・重複障害児の自立活動における「スヌーズレン教育」の意義について』 姉崎弘 2012
- ・・・【国際スヌーズレン協会】、【日本スヌーズレン協会】など、HPもあるので興味のある方は是非♪・・・

姉崎弘さん

- ・現在は常葉大学で教授をしており、専門は特別支援教育、重度重複障害児教育、スヌーズレン教育。
- ・2015年、大阪で日本スヌーズレン総合研究所（現I S N A日本スヌーズレン総合研究所）を設立。スヌーズレンの教育、福祉、セラピーを総合的に研究している。特に、教育における「スヌーズレンの授業づくり」と「スヌーズレンの資格取得」を推進している。
- ・国際スヌーズレン専門支援士を取得。I S N A日本スヌーズレン総合研究所の所長である。